

1 大明神通り (だいましょうじんどおり)



江之島町

この通りのほぼ中央にある新羅神社は、大明神の名で五島地区の住民に敬愛されている。江戸時代中期に浜松藩主の命で小笠原源太夫が、新田の開発、排水路の開設をした時、祖先ゆかりの近江の国の新羅大明神を勧進して祭ったものである。後に五島地区の戦没者を合祀。道の東沿いに戦没者慰霊碑や浜松市合併記念碑が建っている。



2 源太夫堤 (げんだゆうつつみ)



江之島町

江戸時代中期に浜松藩主の命で小笠原源太夫基長に新田開発と排水路開設に当たさせた。水路は船で物資の運搬にも利用され、掘り上げた土で両側に堤を築き、松や柳を植えた。村民は源太夫の功績をたたえ、この堀を源太夫堀と堤を源太夫堤と呼んでいる。



3 楽園跡 (らくえんあと)



江之島町

ここは以前、馬込川の入江となっていて、楽園と言われた施設もあって海水浴や貸しボート、温泉に入って近所の人以外にも遠方から船で訪れにぎわった。



4 江之島橋跡 (えのしまばしあと)



江之島町

昭和28年の新江之島橋開通までは、ここが江之島から他村や街に出る唯一の交通路であった。この木橋は欄干もなく老朽化してからは通行に苦労した。今は廃道となり草木に覆われている。西方に開通した江福橋から、干潮時に橋げたの跡が見られる。



5 鷺の山 (さぎのやま)



江之島町

今日のように開発される以前、ここは鷺の山と言われた。小高い丘があって、人々の憩いの場所となっていた。その美しい名前と共に、人々の心に今でも残っている。



6 新源太夫堀跡 (しんげんだゆうほりあと)



江之島町

江戸中期に掘られた源太夫堀が次第に埋没してしまっていたので、約100年後、時の藩主水野忠邦が、新しく南方に幅員十間(18m)の水路を開設し運河としても利用した。千四百間(約2500m)にわたって開削した。これを「新源太夫堀」と言う。



7 十五メートル道 (学校東通り) (じゅうごめーとどどう)



西島町

この道は2011年に閉校した五島小学校のすぐ東の県道315号(五島天竜川停車場線)で、五島地区では新しい道幅15mの広い道で15メートル道と呼ばれた。



8 本田 (ほんでん)



西島町

西島町の西北に位置し、この道の北側の集落が本田と呼ばれた。しん道が出来るまでは、この本田を通って北の芳川村から街に出た。



9 しん道通り (旧五島村役場跡) (しんどうどおり)



西島町

この道は昭和初期に開通し、乗合自動車が運行された時の五島地区唯一の道路であった。沿道には、旧五島村役場や駐在所、消防分団、商店があった。



10 宮前通 (みやまえどおり)



西島町

真船神社の東側の南北の道路を宮前通という。この神社は、五島地区の神社仏閣の中でも一番古く、桃山時代(1574年)に創建されたと言われている。



11 源太夫堀跡 (げんだゆうほりあと)



西島町

浜松藩主松平伯耆守が天竜川と浜松の便を図り、家臣の小笠原源太夫に命じ運河を築かせた堀の跡である。通称ゲンダイポリと愛称されていた排水路である。天竜川から西へ芳川まで長さ約4km、幅10mで3年の歳月がかかった。



12 御船置場跡 (みふねおきばあと)



福島町

この付近は、江戸時代農民が年貢米の上納のため船を利用し水上運搬したと伝えられ、芳川に面した入江の一角に船をつなぎおくところがあった。



13 福島浜道 (ペイトン号通り) (ふくしまはまみち)



福島町

福島の集落から前浜に通じる道であり、その昔半農半漁の生活で農作業や地引網のため一日何往復もした道であった。明治時代の初め前浜で難破した英国貨物船ジェームズペイトン号の乗組員の救助に往復した道で、往時の先祖が埋葬された墓跡が道沿いに残っている。



14 平左衛門地蔵通り (へいざえもんじぞうどおり)



西島町

西島町と福島町の境の道で北側は平左衛門と呼ばれている。江戸時代頭陀寺の豪族松下家から出た松下平左衛門が開拓した。この道の先、東方は洪水で出来た大池が分断し、道は北に迂回していた。池の東南地区を五千石と呼んでいるが由来は定かでない。昔この大池の袂で行き倒れた行者を憐れんで、お地藏様が建てられ、今でも平左衛門地区の人々が守っている。



15 沢木地蔵通り (さわきじぞうどおり)



松島町

その昔、近くの池で亡くなった娘の霊を慰めるため、建てられたといわれたお地藏様が沢木のお地藏様で有名。西島町の沢木地区内にあり、霊験あらたかなお地藏様で信者のお参りが絶えない。そのお地藏様の南側を、松島町より西島町に通じる道路をいう。



16 松島五右衛門屋敷跡 (まつしまごえもんやしきあと)



松島町

松島町は、慶安元年(1649年)当時天竜川支流があった河原を、松島五右衛門が開拓したのが始まりである。この地は、その松島五右衛門より12代続き、代々松島五右衛門を襲名した旧家の屋敷跡である。北方の祐泉寺に松島五右衛門の墓があり、また五島小学校の前身の松島学校があった。

